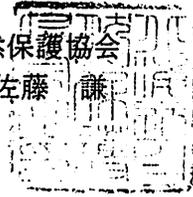


2006年9月27日

北海道知事 高橋はるみ 様
室蘭土木現業所所長 吉田 雅毅 様

(社)北海道自然保護協会
会長 佐藤 謙



ポンオサツ (ユオイ) 川砂防ダム建設計画の見直しを求める要望書

過日、貴職、室蘭土木現業所におかれては標記の砂防ダム建設計画に関する合同現地調査を実現して頂き、感謝いたします。また、北海道大学農学部山田孝助教授のご同行を実現させて頂き、現地において解りやすく良い話をお聞きすることができたことに感謝しております。

さて、現地調査の結果ならびに山田助教授のご説明によりますと、標記の建設計画については、以下に列記する問題点がありますので、ここに解説し、代案を述べる次第です。以上について、可能な限り早々のご返事を願う次第です。

記

1. 計画の問題点

(1) 希少生物の生育地・生息地であること

現地調査の結果、ポンオサツ川周辺にはカタクリ（北海道：留意種 N）やフクジュソウ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類 VU；北海道：絶滅危急種 Vu）の群落があるほか、同河川の全域にわたってニホンザリガニ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類 VU）が多量に生息することが確認されております。ニホンザリガニの生息は、清澄な湧き水が豊富にあることによって支えられ、この河川が、同種の生息地として非常に良好な環境にあることが解りました。

(2) アイヌの重要な文化財であること

砂防ダムが計画されたポンオサツ川の下流には過去にアイヌが祭事に利用していた湧き水が存在し、アイヌの重要な文化財として、またその歴史的な遺産として、価値が大きいと判断しております。

(3) 砂防ダム建設がとくに「湧き水」を涸らす可能性が非常に大きいこと

貴職が計画する砂防ダム建設計画は、特に湧き水を涸らす可能性が大きいので、前述の重要な2項目を失わせる危険性が非常に高いと判断します。

2. 何故、湧き水が涸れる可能性が大きいのか、その理由

現地でのご説明によりますと、湧き水の水源は、河床の地層（砂利層）そのものの帯水層とのことです。その上流に砂防ダムが建設されますが、砂防ダムの下流側では、通常、河床低下が発生・進行しますので、帯水層の水が抜かれてしまい湧き水が涸れてしまう可能性が大きいのです。

また、砂防ダムは、切り込みを入れたスリット型にするのご説明でしたが、道内各地において、例えば黒松内町の黒松内川では、深さを3段階にした8つの切り込みを入れたスリット型砂防ダムが根株付きの流木や小枝・落葉・草等がスリットを塞ぎ、大量の砂が押さえ込まれ、それらの結果、切り込みすべてが塞がってしまい、河川環境への負荷を軽減するとされたスリット型砂防ダムの機能がまったく果たされておりません。ポンオサツ川の砂防ダム計画地を挟む流域をみますと、河床浸食による河岸崩壊が各所で見られ、河岸の木が倒れ込んでおり、砂防ダムのスリットは簡単に塞がってしまう可能性があります。

さらに、砂防ダムの下流側に階段状に設けられる数個の帯工もまた土砂の流下を止めることになり、帯工それぞれの下流側において河床洗掘・河床低下が発生することが危惧されます。結局、帯工の下流側において河床洗掘が深く進行することによって、帯水層の水が抜かれ、湧き水が減少、あるいは消滅する危険性を指摘できます。

他方、現地に行かれた山田助教授によりますと、「土石流は洗掘力は無いが、洗掘するのは水である」と指摘されました。そうであるとすれば、スリット型砂防ダムが塞がる瞬間は増水量が激しいときであり、ここで土砂流下が止められてしまうならば、その下流への土砂流下が減少し、水の流下が主体となります。このことは、明白に、砂防ダム下流側において洗掘力を高めることに結果します。

以上の理由から、河川内に砂防ダムを設けることは、その下流域において河床洗掘・河床低下を引き起こし、湧き水を涸らすことにつながります。このことは、河川環境とそこに生育・生息する希少生物にとって、元へ戻すことができない、取り返しのつかぬ事態を招くと考えます。

ちなみに、砂防ダムが下流側の河床低下を招いた2例を申し添えます。第一に、八雲町遊楽部川水系砂蘭部川では、上流にある治山ダム1基・砂防ダム2基により、驚くほど明瞭な河床低下が発生し、河岸にある農地や町道の崩壊が繰り返され、それらを補修しても1年を経ずして再被災してしまう未満災（解説：補修完成後、1年を待たずして再被災した災害をいう）が繰り返されてきました。この9月6日には、砂蘭部川周辺の農家では、牛に飲ませていた井戸が涸れ、急場しのぎに水道水を飲ませていることが解りました。第二に、沙流川や様似川などの河川流域では、河床低下が発生して、井戸水が涸れた話を耳にします。河床低下は、地下水の水位低下ならびに地下水量の減少に結びつきます。

したがって、ポンオサツ川において、湧き水を残すためにも、砂防ダム建設計画の抜本的な見直しが必要と考えます。

3. ポンオサツ（ユオイ）川荒廃の原因と総合的な対策

ポンオサツ川の上流では、牧草地が開墾されておりますので、この河川の荒廃原因は、一つには牧草地の開墾にあることが明白です。牧草地は、傾斜の緩い斜面から河川に接する急傾斜の辺縁部まで広く設けられており、こうした辺縁部で土砂崩壊が生じるとのご説明がありました。したがって、砂防ダム建設を考える前に、この崩壊しやすい辺縁部をどうするのかを考え、その対策を講じることが先決と思います。私たちは、まず、牧草地の辺縁部において幅30~50mを樹林帯とすることを提案いたします。

また、土石流被害が危惧される住宅地については、土石流が流れる予想ルートを詳細に調べ、土石流を阻止する土塁（堤）を住宅を効果的に守るように河川から離れたところに設けることを提案します。

さらに、ポンオサツ川が国道237号線をボックスカルバートで通過しておりますが、このボックスカルバートが土石流で塞がり、オーバーフローする可能性がありますので、これは国道管理者の問題なのですが、国道管理者にボックスカルバートを撤去して、橋梁構造への変更を求めたいと考えております。貴職におかれましても、道路管理者への対応を願います。

以上の代案は、砂防ダムを建設しない総合的な対策案ですが、以上によって牧草地における土砂崩壊を防ぎ、林道および樹林地の保全につながり、生命線と主張される国道を遮断することもなく、住民の人命・財産を守る目的と合致します。同時に、道民および地域の財産であるニホンザリガニやエゾサンショウウオ、フクジュソウ、カタクリなど希少生物を保全することになり、アイヌ文化財の保全としても目的を達成できます。したがって、この代案は、地元ニ風谷の人々が危惧される問題のすべてを解決でき、すべての人々に共通する最も効果的で有効な方法と考えます。